

国際NGO セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
東北地方太平洋沖地震 第2報
緊急支援チーム被災地域の子どもへの調査へ

社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

子どもたちのための民間の国際援助団体(NGO)社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン(理事長:上野昌也/理事・事務局長:渋谷弘延、以下 SCJ)は、3月11日14時46分に東北・三陸沖を震源とする国内観測史上最大 M8.8 を記録した地震発生直後より緊急支援本部を設置し、今夜セーブ・ザ・チルドレン世界連盟から構成される緊急支援チームを立ち上げました。

セーブ・ザ・チルドレン緊急支援チームは、明日、被災した地域の子どもたちの状況を把握し、子どもたちの保護に尽力するため、被災地域の調査に入ります。

地震発生から一日以上経ちますが、未だに強い揺れを伴う多数の余震が観測されています。また、地震による津波の影響は北海道から沖縄にかけての太平洋沿岸に及び被害が拡大しており行方不明者は9000人に上り、福島県で起こった原発の爆発による放射性物質の放出の危険はないと発表されたものの、地域住民には避難指示が出ています。しかしながら、建物は崩壊し、道路がふさがれ、避難も救助も困難で、すでに避難市民は215,000人と見られます。こうした状況の中で、子どもたちはもっとも脆弱であることが懸念されます。特に、地震発生時は、子どもが学校にいる時間帯であったことから、親と離れ離れになっている子どもがいる可能性があります。

今後、現地調査と並行して、子どもの保護を最優先とする支援活動を行うため、他団体との協働も視野に入れて、セーブ・ザ・チルドレンは一丸となって緊急援助を行います。

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは、1986年に設立され、25年に渡りアジアを中心に子ども支援活動を展開、現在は、ベトナム、ネパール、モンゴル、ミャンマー、アフガニスタン、スリランカ、スーダンに日本人を駐在させ、教育支援や栄養改善プログラムなどに取り組んでいます。また、緊急災害時には、世界連盟のメンバーとともに、世界中で緊急援助活動にもあたっています。

■セーブ・ザ・チルドレンとは

1919年に英国で設立された子ども支援の国際NGO。現在、世界で29のそれぞれ独立した組織がパートナーを組み、世界最大のネットワークで約120カ国で活動を展開しています。